

大己貴神社秋季大祭【おおなむちじんじゃしゅうきたいさい】



開催場所

朝倉郡筑前町

大己貴神社

開催日

10月23日

【芸能の概要】

大己貴神社は、弥生時代の創建と伝わり、朝倉地域でも古い神社の一つといわれる。秋季大祭の起源は定かではないが毎年、10月23日に行われる秋の収穫感謝祭で、「おくんち」といわれ、700から800年の歴史があると伝えられている。祭神の大己貴之命（大国主之命）は大神大明神で（おおがみ）が転じて「おんが」。地元の方は親しみを込めて、お宮を「おんがさま」と呼ぶ。神輿行列は、草場川河畔遷座場所（御旅所）まで往復する。神社と御旅所では「浦安の舞」が奉納される。第二次大戦中は中断していたが、昭和40年代に復興し、現在に受け継がれている。

【芸能の特徴】

大己貴神社は、弥生時代の創建と伝わり、朝倉地域でも古い神社の一つといわれる。神功皇后が朝鮮半島へ軍兵を進めた際、兵が集まらなかったため大己貴神社を建て、槍・楯・鉾などを置いていたところ、兵が自ら集まってきたという説もある。秋季大祭の起源は定かではないが、毎年10月23日に行われる秋の収穫感謝祭で、「おくんち」といわれ、700から800年の歴史があると伝えられる。祭神の大己貴之命（大国主之命）は大神大明神で（おおがみ）が転じて「おんが」。地元の方は親しみを込めて、お宮を「おんがさま」と呼ぶ。神輿行列は、草場川河畔遷座場所（御旅所）まで往復する。神社と御旅所では「浦安の舞」が奉納される。第二次大戦中は中断していたが、昭和40年代に復興し、神輿や道具類は新しく作り直された。行列行事も復興し、10月23日の秋の収穫感謝の祭りとして現在まで受け継がれている。毎年、氏子地区で、役割分担を決めて運営している。

【使用する祭具・道具など】

神幸祭は、御幣を先頭に御鉾、前払い、富柱、楽人らが神輿の先導し、その後から氏子が供奉するという簡素な中にも厳粛さを持つものだった。近世中期頃から行列や奉納する芸能にも趣向が凝らされるようになったといわれる。面をかぶった男道八、女道八や小学一年生の男子による御前太鼓などが行列を組み、神社と遷座場所で「浦安の舞」が舞われる。浦安の舞は、扇の舞に続き、鈴の舞が女子中学生によって優雅に舞われる。

・アクセス

西鉄バス依井バス停から徒歩30分

・周辺の観光

秋月、三輪町歴史の里
大国様まつりと三輪町物産展（2月）
目配山登山マラソン大会（10月）どんとまつり（11月）
健康と福祉のつどい（12月）

・近くの特産品

いちご、ぶどう、甘木飴、焼酎、梨。

